

2022
No.186

福
祉
の

まちづくり

- 2 ごあいさつ
- 4 特集1 孤立・孤独を防ぐ支え合い活動
- 6 特集2 孤立・孤独への取組
- 8 子どもが安心して暮らせる地域社会
- 10 各部署の取組を紹介
- 12 子どもの居場所づくり運営者のための
助成金活用セミナー・ご寄付のお礼

いつもの散歩が地域のつながりづくりに
わんわんパトロール活動は4ページをご覧ください

開催予告



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



3会場
同時開催

SDGs 多様性 社会貢献 まちづくり コミュニケーション

kyoto ころろつながるプロジェクト

3月5日(土) 10時30分～15時



会場1 ゼスト御池
河原町広場
参加型アート、
活動団体PR等

会場2 QUESTION
(クエスチョン)
トークセッション、ワーク
ショップ、作品展示等

会場3 モダン・タイムス
9組のアーティストによる
ミュージックライブ

コロナ禍で、私たちは集まり、出会い、対話する自由を制限されてきました。

社会的孤立の深刻さが増す中、一人ひとりが参加し、お互いの声を聴き合う時間や空間を共に創っていくことが、今こそ大事にされる時です。

この度、「京(今日)から再びつながる」をテーマに、イベント「kyotoころろつながるプロジェクト」を開催します。

このイベントに参加して、自分と違う考えにふれたり、つながりの喜びや楽しさを体験して、共に生きる福祉のまちづくりを一緒に考えてみませんか。

人に優しく、災害に強い、信頼の絆で結ばれたコミュニティづくり

社会福祉法人 京都市社会福祉協議会

共に生きる福祉のまち「京都」の実現



社会福祉法人京都市社会福祉協議会 会長 小石 玖三主こいしくみす

コロナ禍に負けない！ 「共に生きる福祉のまち『京都』の実現」を目指して

新年明けましておめでとうございます。
皆様におかれましては、輝かしい新年を迎えられましたことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は、本会の運営並びに事業の推進に對しまして、格別の御理解と温かい御支援を賜り、心から深く感謝を申し上げます。

さて、一昨年からの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、社会経済情勢の悪化や市民生活に多大な影響が生じ、これまでにない貧困や生活困窮、社会的孤立等が急激に広がっています。

そうした中、昨年は、生活が立ちゆかなくなった方々への相談対応を継続するとともに、ひきこもり状態にある方々に対する寄り添い支援や、子どもの孤立や貧困問題に取り組む子ども食堂等の活動に対する支援を重点的に強化して参りました。

また、老人デイサービスセンターや児童館等の指定管理施設においても、利用される方々が安全に利用いただけるよう、十分な感染防止対策を図った運営を行うなど、誰もが安心して暮らせる地域社会を目指した取組を推進して参りました。

一方で、京都市の財政危機を改善すべく発出された行財政改革は、本会はもとより地域の福祉関係者の方々にとっても大変

厳しい情勢となっており、コロナ禍の先行きがまだまだ不透明であることも相まって、しばらくは我慢の時期が続くことが想像されます。

しかしながら、こうした厳しい局面の中にあっても、本会は京都市域の地域福祉を推進する中核的な団体として、創意工夫を凝らしながら「共に生きる福祉のまち『京都』の実現」を目指して、市・区・学区社協活動の方向性を示した「京都市の社協基本構想」と、その具体化に向けた「推進計画」を着実に実行しているところでございます。

今後、市民の皆様の信頼に応えるため、村井信夫顧問をはじめ役員の皆様や職員の皆さんと共に築き上げてきた実績を礎に、京都市との強いパートナーシップのもと様々な課題に取り組むとともに、市・区・学区の地域福祉活動発展のため、京都市民生児童委員連盟をはじめ関係機関、団体・施設等との協働・ネットワークにより、最善を尽くして参る所存です。

本年が、京都市域の福祉がますます発展し、更なる飛躍の年となりますよう、皆様方のより一層の御支援並びに御協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

令和四年元旦

あけましておめでとうございます。昨年はコロナ禍の厳しい日々でした。

京都市社会福祉協議会の皆様におかれましては、生活資金にお困りの方に対する貸付をはじめ、市民の皆様の生活を多岐にわたって支えていただいております、小石玖三会長、村井信夫顧問をはじめとされる役員並びに会員の皆様の御熱意と多大な御尽力に、心から敬意を表しますとともに、皆様の常々の御指導・御支援に改めて感謝申し上げます。

そのような中、命と健康、暮らしを共に守り抜く！本市では医療関係者はじめ市民・事業者の皆様の御理解の下、医療・検査・相談体制を大幅に強化。ワクチン接種も大きく進みました。

そして迎えた新たな年。感染状況を注視しつつ、市会、市民、各界代表の皆様と対話を深め、府市協調で切れ目のないコロナ対策を推進。市民生活・雇用・経済・教育・文化・観光の下支え、回復に全力投球します。

本市ではこれまで、福祉、教育、子育て支援等の分野で、国の水準を上回る施策を展開。それらは、全国トップ水準の福祉、子育て、保育・幼児教育の質の確保や保育所待機児童8年連続ゼロ、小・中学生の学力全国トップレベル、都市格の向



持続可能な財政を確立し、魅力あふれる京都を 共に未来へ！改革に邁進します

京都市長 門川 大作かどかわ だいさく

上、「SDGs先進度」全国1位等の高い評価につながっています。一方、この間、年間人件費270億円削減をはじめとする行財政改革を推進。経済も活性化し、コロナ前の5年間で市税収入は9%増となり、過去最高を更新しました。

しかし、収支不均衡の構造が長く続く中、国からの地方交付税が大幅に削減され、そこへコロナ禍。本市の財政は今、危機に直面しています。輝かしい京都の未来のため、子どもたちや困難を抱える方々のために、まずは市職員の給与カット等の行財政改革を断行。限られた財源を吟味・再配分し、市民の皆様が丁寧な御説明しながら、京都ならではの福祉、子育て、教育、安心安全をしっかり守ってまいります。

同時に、京都の強みを生かした成長戦略にも着手。激甚化する災害への備えとともに、「2050年CO₂排出量正味ゼロ」に向けたまちづくり、産業用地・オフィス、働く場所の確保や住居の創出で若い世代に選ばれる都市に、「誰一人取り残さない」デジタル化の推進など、「挑戦と改革」で確かな未来を展望します。

魅力と活力ある京都のまち、持続可能な未来へ。覚悟を決めて市民の皆様と共に歩みを進めてまいります。

本年もよろしく願い申し上げます。

ピンチをチャンスに！

孤立・孤独を防ぐ

支え合い活動 がうまれています

新型コロナウイルス感染症に大きな影響を受け、多くの地域活動が休止や延期、縮小を余儀なくされ、さまざまなつながりが阻害される状況になりました。しかし、このピンチをチャンスにすべく、これまで積み重ねてきた活動を見つめなおし、活動への想いや意義を再確認し、新たな可能性を探る機会として捉えることもできます。再開に向けて、さまざまなアレンジやチャレンジを共有し、新しい支え合い活動を広げていきましょう。



下京

愛犬とともに、
気にかけてあえる地域に

わんわんパトロール活動

下京区では、飼い主が愛犬とともにできる支え合い活動として「わんわんパトロール活動」が始まっています。活動内容は、腕章を着用しながら散歩をし、挨拶し合ったり、愛犬をきっかけとして会話を交わしたり、困っているような方がいれば「何かお手伝いしましょうか」等の声かけを意識すること。そのようなあたたかな見守りが、顔の見える関係性をつくり、住み慣れた地域での生活を支えています。



▲活動時にリードに着用するオリジナル腕章

活動者の声 /

毎日のワンコとの散歩が、地域のつながり・絆を深められる見守り活動にもなることを令和2年度「地域支え合い活動入門講座」で知り、受講者とともに「わんわんパトロール雅の会」として活動しています。コロナ禍でも不安なくできる、気軽な支え合い活動として広がっていきたいです。



山科

電話を通じて、
人とつながる安心感を

おしゃべり電話事業

「お元気ですか」「体調にお変わりないですか」このような電話をかけているのは、お話し相手のボランティア。これまでから山科区では、定期的に電話をかけることで安否確認を含めた見守りをする「おしゃべり電話事業」に取り組んできました。

コロナ禍でご様子を伺う機会が減ってしまった「ちょっと気になる方」が増える中、山科区社協では、身体状況によって通いの場に出向けない方や、一日中誰とも話せず寂しい気持ちを抱えた方の心の拠り所になる活動として、地域や関係団体とともに本事業の充実を図っています。



東山

オンラインを
身近なものに

ZOOM体操

東山区では、毎週月曜日に学区社協会長をはじめ、地域の役員やボランティア、福祉施設等を対象にZOOMを活用した「ラジオ体操」が行われています。コロナ禍によりフレイルの進行が危惧されている中、この取組では体を動かすことで健康増進を図る目的と合わせて、地域でのオンラインの利用促進を目指しています。

参加者は回を重ねるごとにZOOMの扱いに慣れてこれ、オンラインの利用に自信をつなげている様子。東山区では今後は広く区民へ周知し「ZOOM体操」の本格実施を目指しています。また本取組がきっかけとなり、オンラインの活用によって地域活動の幅が広がることが期待されています。



地域支え合い活動創出
コーディネーターを
ご存じですか？

京都市社会福祉協議会では、「地域支え合い活動創出事業」を京都市から受託し、各区社協に地域支え合い活動創出コーディネーター（全区で12名）を配置しています。



- ✓ 新しい活動を始めてみたい。
- ✓ オンラインを活用したい。
- ✓ 地域の支え合い活動に参加したい。
- ✓ 活動を支援したい。
- ✓ 他団体とつながりたい。
- ✓ 活動上で悩みがある…等。

ぜひ、お気軽にご相談ください。「今だからこそのこと」を一緒に考えながら、孤立・孤独を防ぐ地域づくりをすすめていきましょ。



▼ホームページ
https://www.syakyo-kyo-to.net/shisyakyo-fakunyu-jigyou.html https://www.syakyo-kyoto.net/shisyakyo-fakunyu-jigyou.html

ひきこもる本人の思いを大切に、社会参加ができるように、京都市社会福祉協議会では、よりそい支援員による伴走型支援とともに社協の総合力を生かした取組を行っています。

個別支援を通じて地域とつながる（事例は一部加工しています）

Aさんは、専門学校中退後、人の目が気になり自宅から出られなくなった、40代男性です。母と二人暮らしでしたが、母が亡くなり、独居となったAさんから窓口に「これから、どうしたらいいかわからない」と相談がありました。今後の生活を一緒に考えていくため、よりそい支援員による支援を開始しました。

支援を進める中で、「自宅前の草木が道にはみ出してきて困っている」と話してくれました。本人と一緒によりそい支援員が剪定作業を行いました。しかし庭は広いので今後も庭の片づけ等が必要であるため、地域の担い手の方に協力依頼できるか区社協に相談してみることにになりました。これをきっかけに、区社協職員や地域の方と顔の見える関係をつくってこうと思っています。



チャレンジ就労体験事業と連携して社協全体で仕事を生み出す

チャレンジ就労体験事業に興味はあるがハードルが高いと感じている方や、支援者と一緒なら参加できる方に向けて、区社協・チャレンジ就労担当者と連携し、まずは一日から参加できる就労体験を試行的に開始しました。これまでに、よりそい支援員とともに花壇の整備やラベル貼り、ゴミ袋ガウン作りを行いました。

ひきこもっている方ができる仕事をつくりだし一緒にやってみることで、一歩踏み出せるような支援を行っています。今後も区社協や、法人内の部署が連携し、体験者に応じた様々なプログラムをすすめていく予定です。



完成したゴミ袋ガウン

※チャレンジ就労体験事業とは、一般就労が難しい方に就労の場を提供し、就労・社会生活のステップアップを図ることを目的としている事業で、京都市から委託を受け実施しています。

住民とともに居場所づくりをすすめる ～下京プチガーデンプロジェクト～

下京区社協が地域住民の皆さんとともに進める「緑ある居場所づくり」の活動に、ひきこもっている方も参加しています。花を育てることを通じてお互いを理解し合ったり、ゆるやかなつながりを構築したり、それぞれが役割を發揮しながら活動しています。



参加された方は地域の方との交流やチャレンジ就労体験事業を通して「はじめは不安がいっぱいだった」が支援員と一緒に他の参加者や地域の方と交流できて「楽しかった」と話され、「続けてやってみたい」と次の一歩に進んでみたいという変化がみられています。

このように、地域の方々とともに、ひきこもっている人に合った役割をつくり出す、人と人がつながる場をつくるなど、社協の強みを活かし、一人ひとりに合った支援を今後も進めていきます。

「よりそい・つなぐ」相談窓口では、ひきこもる本人やご家族によりそい、不安や困りごと、思いを受けとめています。



相談実績（令和2年9月1日～令和3年8月31日）

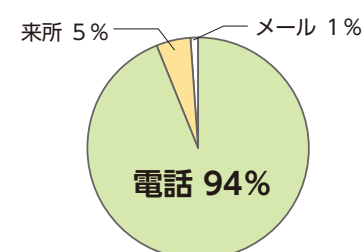
相談対応

新規相談 ケース数	1回のみ の相談	継続相談 (2回以上の関わり)	1月平均	ケース相談	一般相談
411	142 (35%)	269 (65%)	34.2	380	31

相談ケースへの対応回数（※本人、家族・親族以外の関係機関への連絡調整は除く）

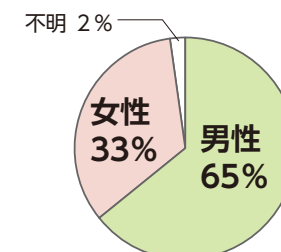
電話	来所	訪問	メール	その他	合計	1ケースあたり 平均対応回数
1063	325	16	53	25	1482	3.6

窓口への相談方法



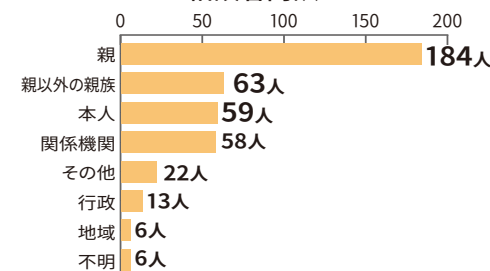
電話での初回相談が9割以上を占める。相談者のタイミングで気軽に相談できることが理由と考えられる。

対象者性別



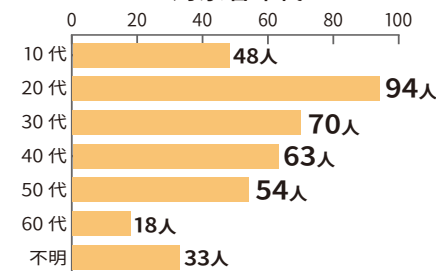
コロナ禍による失業等の影響から、困りごとを抱えておられる女性も増えていると考えられる。
（参考：内閣府の平成30年度調査による男女比は男性76.6%、女性23.4%）

相談者内訳



親からの相談が多い。親以外の親族からの相談は、本人が中高年齢層等で、将来の生活を心配した兄弟姉妹等からの相談が多い。

対象者年代



これまで相談につながらなかった40代～50代の相談も多い。若い世代の相談も一定数ある。（※一般相談除く）

● 相談を通して…

窓口での相談を通して、不安や困りごとの整理がついたことで、解決に向かった事例もありました。

しかし、声をあげられず、相談につながっていない方もまだ多いと思われます。

相談の中では、仕事を失ったり、就労の時期を逸してしまった人、リモート授業中心になった大学生など、コロナ禍の影響で孤立感を深める方の声も受けとめています。

よりそい支援員の支援について

相談窓口や区保健福祉センターからつながった相談で継続的かつ丁寧な支援が必要なケースについては、よりそい支援員が本人のペースを大切にしながら、面談、訪問、同行の伴走型支援をしています。

※「よりそい・つなぐ」相談窓口、よりそい支援員は京都市の委託を受けて実施しています。

孤立・孤独への取組 組織で連携した相談支援

新たな仕組みによるひきこもり支援が始まり、1年が経ちました。今回は、1年を通して見えてきた課題や実際の取組をご紹介します。



▲「よりそい・つなぐ」相談窓口HP



つながり広げる きょうと「こどもみらい笑顔便」



ライオンズクラブ国際協会335-C地区の皆さんからは、寄付や寄贈、配送品梱包作業等の支援をいただきました。

令和2年にライオンズクラブ国際協会335-C地区・京都市・京都市社会福祉協議会が協定を締結し、支援を必要とする家庭に食品や日用品を届けるとともに、LINEアプリを活用した情報発信等を通じて、気軽に相談できる関係づくりを進める事業の一部の小学校区で実施しています。

より多くの地域で、子どもや子育て家庭を見守り、支える活動が今後も広がっていくよう取り組みます。



「知りたい！子ども食堂の醍醐味」 子ども食堂学習会＆講演会を開催

9月20日（月・祝）、「子どもの居場所づくり『支援の輪』サポート事業（京都市委託事業）」のイベントとして、「子ども食堂学習会＆講演会～子ども食堂の役割や可能性について学ぶ～」を開催しました。

当日は緊急事態宣言が発令されていたためオンラインでの開催となりました。子どもの居場所づくり実践団体や応援する企業・関係機関など、約130人の参加があり、講師の方からの貴重なメッセージをいただきました。

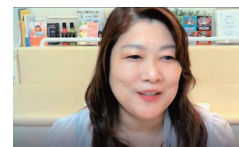
学習会

感染症対策ノウハウを 子ども食堂みんなのものに

山縣 郁子氏

認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ
感染症対策プロジェクト リーダー

むすびえではホームページで「新型コロナウイルス対策緊急プロジェクト」ページを設け、小児科医師による、実際の子ども食堂での正しい感染対策指導を動画にして公開しています。（※右QRコードより参照）



新型コロナウイルスにより全国でも多くの子ども食堂が休止を余儀なくされました。少しでも皆さんの活動が再開できるよう願っています。一緒に頑張りましょう。

講演会

コロナ禍で見えてきた 子ども食堂の力

湯浅 誠氏

認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ
理事長

●子ども食堂が持つ価値とは
「子ども食堂ってどんなところ？」と聞かれたら皆さんなら一言で何と答えるでしょうか。



世間では、「食べられない子が行くところ」という答えが圧倒的に多いです。しかし、実際の子ども食堂は、子どもの貧困対策にとどまらず、地域の高齢者が子どもたちとふれ合う場や、親御さんの大変な子育てを支援するような、子どもを真ん中に置いた『多世代交流の場』でもあります。地域社会の参加の場としての価値に着目し、地域づくりを進めていきましょう。

●災害のたびに増えてきた子ども食堂

災害のような非常時には、「普段からつながらないと大変」という機運が高まり、身近な人たちと結びつく場として、子ども食堂の立ち上げにつながったという事例がありました。

災害やコロナ禍という非日常との隣り合わせが新しい日常となっていく中で、居場所は平時において人と人とのつながりを、非日常にはセーフティネットとなる動きが期待されます。この循環を、子ども食堂が住民同士の助け合いの拠点として生み出しています。

誰一人取り残さない社会を目指して、一緒に取り組んでいきましょう。



▲オンライン配信の様子



「子どもの居場所」と連携する児童館スタッフ —醍醐西子どもの居場所づくり実行委員会の取組—



「醍醐西子どもの居場所」は、様々な環境にある子どもたちの居場所を作り、地域の大人で大切に育てることを目的として、平成28年に開設され、食事・学習・遊びの場を提供し、子どもたちを見守り支えています。この「居場所」を運営する実行委員会は、地域団体や行政機関、小学校などで構成され、醍醐中央児童館も立ち上げから参画し、会場の壁面飾りや子どもたちの遊び相手・話し相手など、児童館職員の専門性を活かしています。

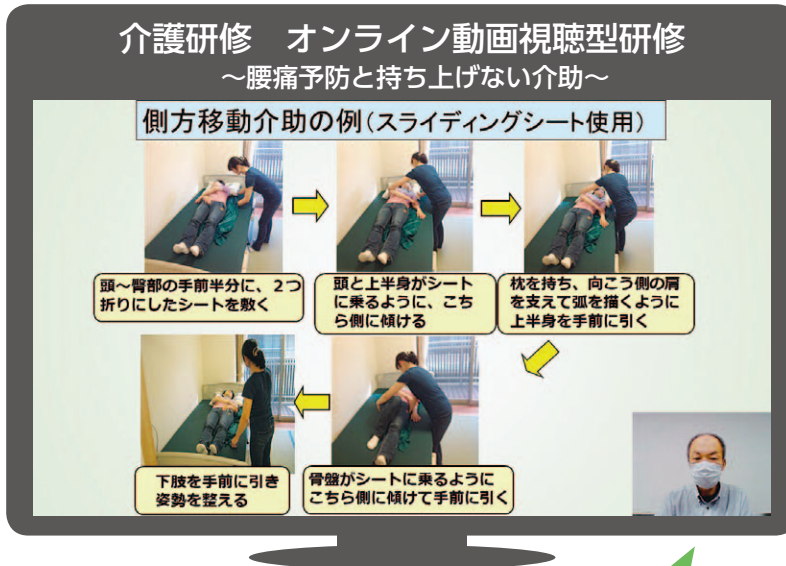
また、細かな情報の共有とスムーズな連携のもと、「居場所」に集う子どもたちに寄り添い、小さな変化を見逃さないよう、丁寧な対応や言葉かけに努めています。児童館の特性を活かしながら、今後とも皆さんと共によりよい地域づくりを進めていきます。





動画で学び、職場実践

～介護研修 オンライン動画視聴型研修～



研修情報は
こちら



受講3カ月後アンケート ～受講者の声～

- 研修受講後、支援対象者の負担にならない介助を心がけるとともに、自分の身体も負担がかからないよう姿勢に気をつけたり、ベッドの高さを調整するようになりました。今では支援対象者の残存機能を活かした介助に取り組んでいます。

社会福祉研修・介護実習普及センターでは、様々な研修を実施しており、研修内容が職場での実践に役立てられ、福祉サービスの質の向上につながっています。

今年度の介護研修では、受講者の業務の都合の良い時間に学べるオンライン動画視聴型研修を実施しました。

テーマは「腰痛予防と持ち上げない介助」で、ベッドや車いすの移乗場面で持ち上げず、腰痛予防しながら介助する方法を動画で紹介しています。

また、介助者だけでなく、支援対象者にも負担のかからない、よりよい介助方法の研修となっています。

研修実施から3カ月後のアンケートでは、多くの方が学びを活かして職場で実践され、対象者への支援の質の向上につながったことがわかりました。

社会福祉研修・介護実習普及センターでは、他の業界から介護職に転職されてきた方でも学びやすい介護研修を実施しています。ぜひ当センターの研修をご活用ください。

地域包括支援センター(高齢サポート)の感染症対策とこれからの取組について



本会では、京都市内に5カ所(仁和、御池、東山、陶化、葛野)の地域包括支援センター(高齢サポート)を運営しています。

これまで各センターでは、地域の身近な相談窓口であるとともに、車いすを中心とした福祉用具の貸出しや、買物支援が必要な地域では移動販売の取組を推進するなど、それぞれのセンターが地域生活課題への取組を行ってきました。

新型コロナウイルス感染症の影響

しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、感染予防、感染拡大防止対策の一環として、訪問や各種会議の制限を余儀なくされるなか、事業継続を最優先としてきました。例えば、職員の健康管理、マスク着用や手指消毒はもとより、相談スペースや事務所にはアクリル板等を設置し、飛沫による感染予防の取組を続けています。また、利用者宅への訪問の際には、事前に電話連絡をして体調確認を行い、換気や密にならない距離での面談を心がけ、お互いに不安の無いように訪問を行っています。また、地域ケア会議など地域団体、関係機関との意見交換、情報共有については、



アンケートなど書面での開催やインターネットを活用したオンライン会議などの取組も推進しています。

しかしながら、感染予防のために、外出を控えられたことで、人との交流の機会が減り、ひきこもりがちになった方や、昔ながらの近隣との付き合い合いでの見守りの機会が減り、家族の訪問回数が減少した状況が続いたため、体力の低下や認知症状の進行に至ってしまったという一人暮らしの方などの相談が寄せられています。

ウィズコロナ社会に対応した支援

このような状況を踏まえ、これからは、感染予防に配慮した「ウィズコロナ」に向けた取組が必要です。さらには、「アフターコロナ」における地域ケアのあり方についても検討していくことが喫緊の課題です。

特に、高齢者の方々の支援には、本会の強みを活かした地域の福祉活動との連携は不可欠です。関係者と共に、地域活動の再開と活動の充実に向けても、取り組んでいくことが、センターの重要な役割であると考えています。

具体的には、介護予防の普及啓発、フレイル対策、新たな地域生活課題の把握などウィズコロナ社会に対応した支援の充実を図っていきます。



感染防止対策と事業継続の両立

長寿すこやかセンターの取組

やむを得ず中止・延期したものもありますが、可能な限りオンラインを活用し、予定通りの開催に努めました。オンラインによる講座・研修の取組は、感染拡大防止の観点から取り入れたものですが、受講希望者が予想以上に多かったことから、今後も積極的に取り入れていきたいと考えています。

2 講座研修・交流会等事業

でも、平常時とほぼ同等の件数の相談に対応することができました。



1 相談事業

感染拡大防止のため、人と人との接触機会の減少が求められる中、長寿すこやかセンターでは、様々な工夫を行い、市民や福祉専門職を対象とした事業を継続して実施しました。

緊急事態宣言発令中は、やむを得ない場合を除き来所相談の自粛を求めています。また、電話やメールといった非接触の手段を積極的に活用し、

様々な相談に対して通常通り対応しました。その結果、緊急事態宣言発令中でも、

日常生活自立支援事業 生活支援員(臨時職員)募集中!

高齢の方や知的・精神に障害のある方などで、福祉サービスの利用や日常のお金の管理などを自分一人で判断することに不安のある方を対象に、本人との契約に基づき支援する事業です。

支援計画に基づいて自宅などを訪問し、お手伝い(支援)を行っていただく「生活支援員」を募集しています。

また、生活支援員となるための養成研修の参加者も募集しています。

詳しくは、どうぞお気軽に下記までお問い合わせください。

- 養成研修 令和4年1月27日(木)、2月1日(火)、2月3日(木)の3日間開催
いずれも午後2時～3時45分。3日間全て受講いただく必要があります。
会場は、ひと・まち交流館 京都 2階大会議室 事前申込制



申込・問合せ先 生活支援部 TEL.(075)354-8734

気を緩めず コロナ感染防止対策の 継続を！

当館では、消毒作業など、様々な感染防止対策を行っていますが、利用の際は、基本的な感染防止対策に引き続き取り組んでいただきますようお願いいたします。

〔基本的な感染防止対策〕

- マスクの着用
- こまめな手洗い（消毒水の利用）
- 3つの密（密閉・密集・密接）の回避

また、少しでも体調が優れない時は、来館をご遠慮いただきますようお願いいたします。



子どもの居場所づくり運営者のための 助成金活用セミナー

2月24日(木) 13:30~16:00

キャンパスプラザ京都 & オンライン開催

助成金をうまく活用して、子ども食堂をもっと元気に！
助成金情報の探し方から、“思いが伝わる”書類の書き方など、ちょっとしたコツをお伝えします。助成財団からのメッセージも！

講師 久留宮 共樹氏 (NPOの悉皆屋 くるみ屋)

宇野 明香氏 (ハピネス子ども食堂 特定非営利活動法人happiness)

詳細・申込はこちら <https://kyoto-kodomo.jp/>

問合せ先 地域支援部

TEL. (075) 354-8732

FAX. (075) 354-8738



ご寄付のお礼

貴重なご厚志
ありがとうございました。
(敬称略)



令和2年

- 11月 関西遊技機商業協同組合
- 12月 特定非営利活動法人国際技術交流協会
京セラ株式会社 従業員一同
京セラ株式会社 本社
京セラ労働組合 京都支部
ライオンズクラブ国際協会335-C地区
株式会社 ホテルプリンセス京都

令和3年

- 1月 ライオンズクラブ国際協会335-C地区
- 3月 オーシャン貿易株式会社
- 4月 横井 廣子

- 5月 木曾 和紀
大里 博一
 - 6月 Dream財団
株式会社三賀
北野天満宮
ライオンズクラブ国際協会335-C地区
 - 7月 ライオンズクラブ国際協会335-C地区
 - 9月 株式会社ピエラス
 - 10月 ライオンズクラブ国際協会335-C地区
株式会社 紅中 名誉会長 中村 暢秀
 - 11月 公益財団法人 京遊連社会福祉基金
- ※その他複数の匿名の方からもいただいています。

福祉事業を始めるなら

賠償責任保険は必須です！

福祉事業者総合補償制度
「まごころワイド」をおすすめします。

充実の賠償責任補償制度、
安価な傷害見舞金補償制度など
必要なプランを組み合わせでご加入いただけます。

福祉専門チームによる安心の事故対応、京都市社会福祉協議会、
京都府社会福祉協議会が提供する福祉の現場に合った内容です。

詳しい補償内容はこちらまで

福祉の保険「まごころワイド」取扱代理店

京都の総合
保険代理店 **SRM 株式会社 エスアールエム**

専用TEL **075-255-0883**

福祉の保険
ホームページ **www.srm-net.co.jp/**

引受保険会社：三井住友海上火災保険株式会社

この広告は保険の特徴を説明したものです。
詳しくは商品パンフレットをご覧ください。

ボランティア活動には「ボランティア保険」
イベントを開催されるときには「福祉行事保険」も併せてご利用ください。

186号 2022年1月17日発行

●発行／社会福祉法人 京都市社会福祉協議会
TEL. (075) 354-8731 FAX. (075) 354-8736

Q 京都市社協 ホームページで京都市社協の活動を映像でご覧いただけます。携帯電話でもバーコードリーダーで右のQRコードを読んで簡単アクセス！



〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1
(河原町五条下る東側)「ひと・まち交流館 京都」

●発行人／小石玖三主 ●編集人／芳賀正昭 ●編集協力／株式会社きかんしコム



京都市社会福祉協議会では、京都市における環境負荷の管理・低減の規格であるKESステップ2を認証取得し、環境負荷軽減に努めています。



この広報誌は一部共同募金の配分金で発行しています。

